

令和6年度「全国学力・学習状況調査」指宿市結果報告

文部科学省は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために、小学校6年生と中学校3年生を対象とした全国学力・学習状況調査を実施しています。

指宿市では令和6年度の調査に全小・中学校が参加しました。教育委員会及び市内の各学校では、この結果をもとに実態を把握し、学力向上に向けた取組を更に充実していきたいと考えています。

なお、教科に関する調査は小学校第6学年（国語・算数）の2教科、中学校第3学年（国語・数学）の2教科の実施であることから、市内の全児童生徒の学力傾向を示しているわけではありません。全体的な傾向と出題された領域を分析するものであることを御理解ください。

1 教科に関する調査の結果概要（平均正答数・平均正答率）

(1) 小学校6年生

小学校では、国語、算数ともに県平均正答率を下回った。国語においては、4%下がっており、県との差が－2から－4へと広がった。

	国 語		算 数	
	指宿市	鹿児島県	指宿市	鹿児島県
令和6年度	9.0 / 14 問 (65%)	9.6 / 14 問 (69%)	9.5 / 16 問 (59%)	10.0 / 16 問 (62%)
令和5年度	9.0 / 14 問 (65%)	9.4 / 14 問 (67%)	9.3 / 16 問 (58%)	9.8 / 16 問 (61%)
令和4年度	9.2 / 14 問 (66%)	9.3 / 14 問 (66%)	10.2 / 16 問 (64%)	10.1 / 16 問 (63%)

※ 指宿市及び県平均正答率は、小数第一位を四捨五入した値（整数値）である。

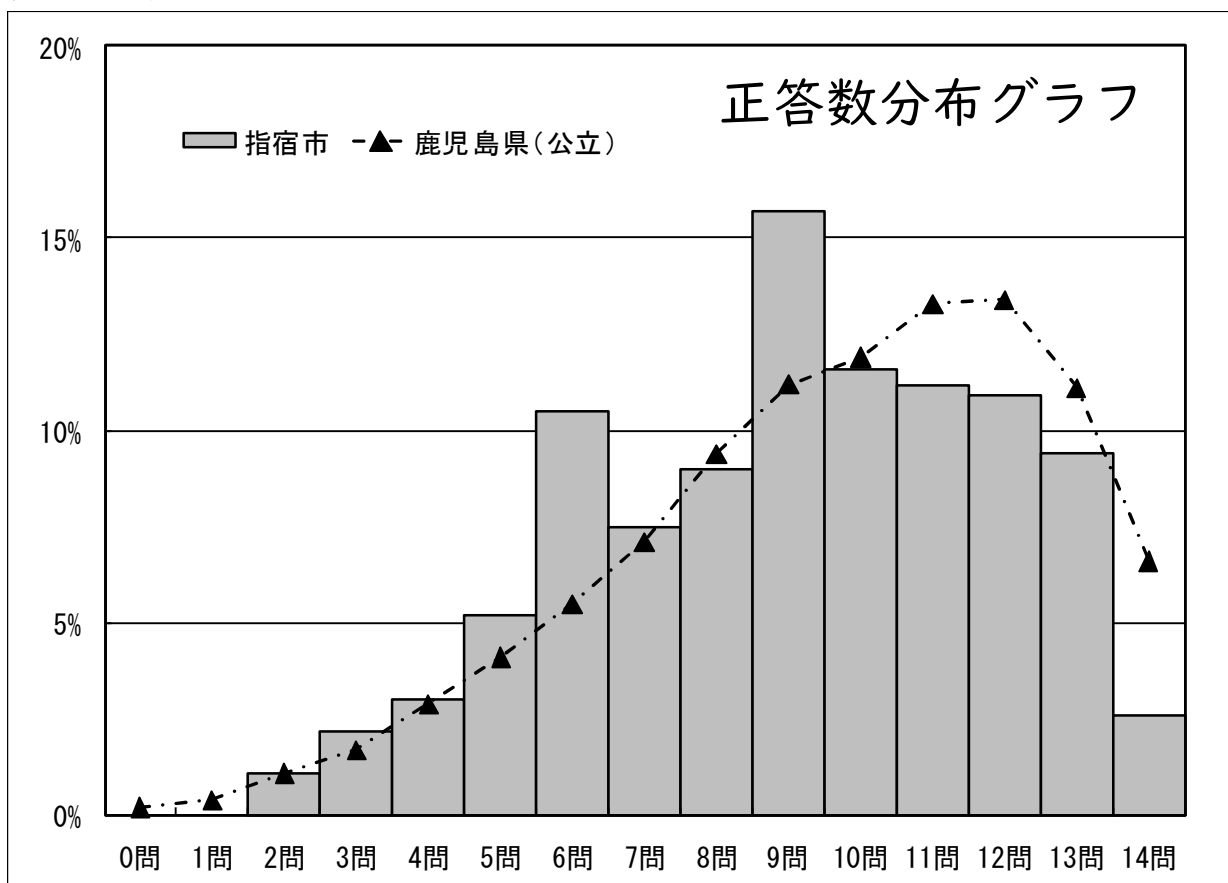
(2) 中学校3年生

中学校では、国語が県平均正答率をわずがではあるが下回った。しかし、数学においては、令和5年度は県との差が－1だったが、±0となった。

	国 語		数 学	
	指宿市	鹿児島県	指宿市	鹿児島県
令和6年度	8.2 / 15 問 (55%)	8.4 / 15 問 (56%)	8.0 / 16 問 (50%)	8.0 / 65 問 (50%)
令和5年度	10.3 / 15 問 (69%)	10.5 / 15 問 (70%)	7.1 / 15 問 (47%)	7.2 / 15 問 (48%)
令和4年度	9.9 / 14 問 (70%)	9.7 / 14 問 (69%)	6.4 / 14 問 (45%)	6.6 / 14 問 (47%)

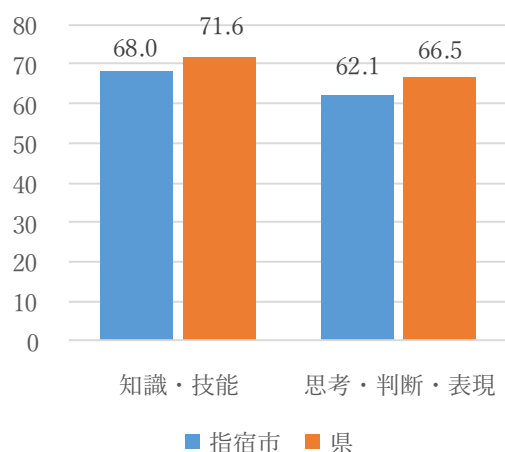
2 教科に関する調査の結果概要（正答数分布グラフ，観点別・領域別平均正答率）

(1) 小学校国語



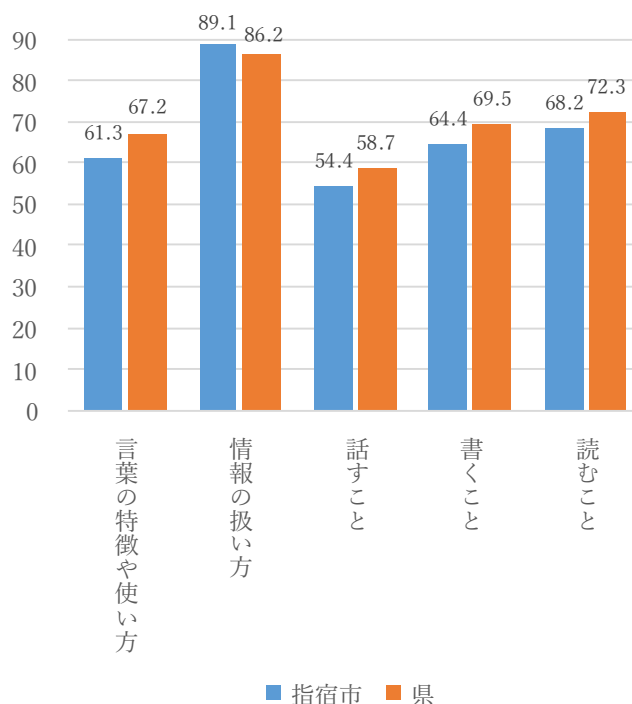
全 14 問中9問正答した児童の割合が高い。県平均と比較すると、11・12 問の正答者が少ないので、「1人あと2問」をキーワードとして、基礎・基本の確実な定着を図る。また、6問正答の児童を含めた国語を苦手としている児童への個別指導をより一層充実させる。

観点別平均正答率

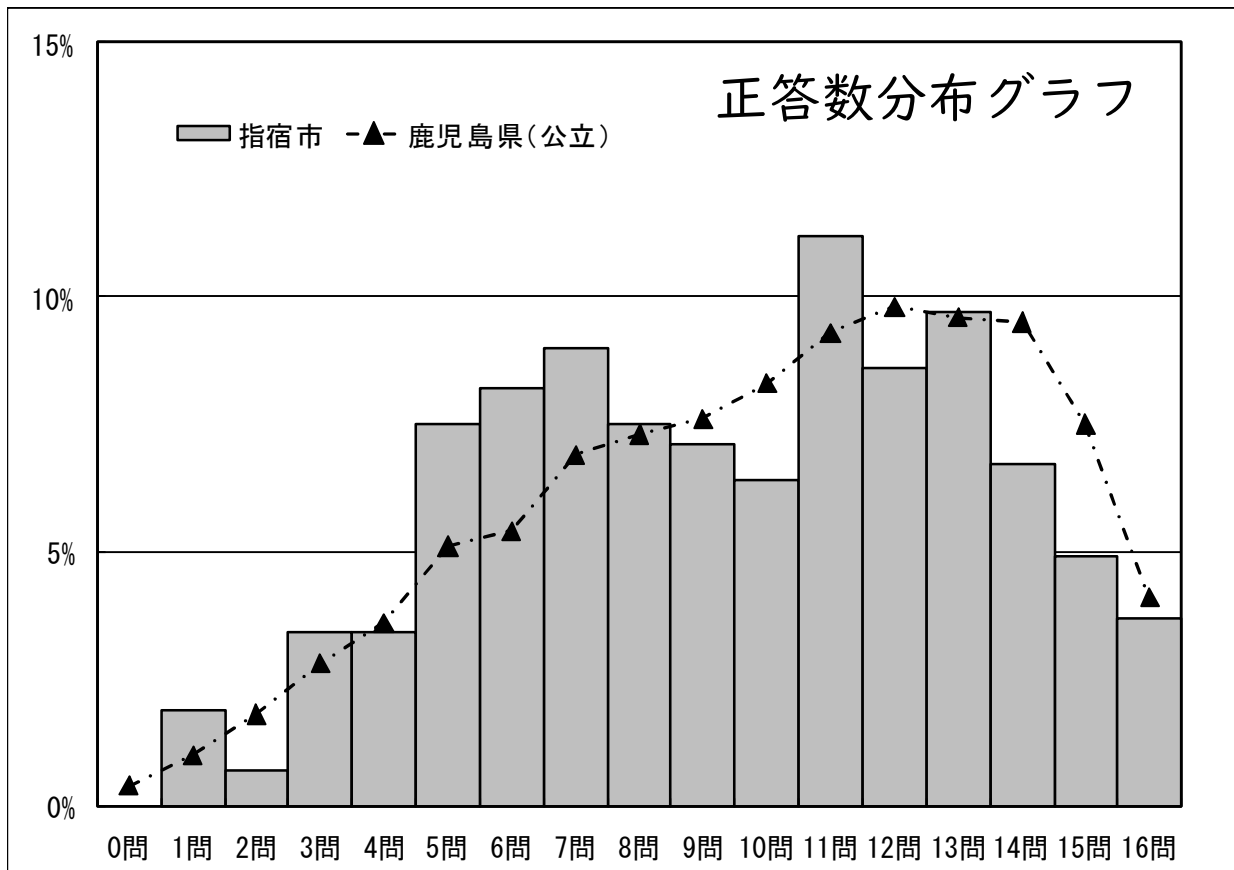


観点別平均正答率の「知識・技能」において、県平均との差が-3.6 となっている。児童が「分かった」と実感できるような単元の指導計画等を工夫する。

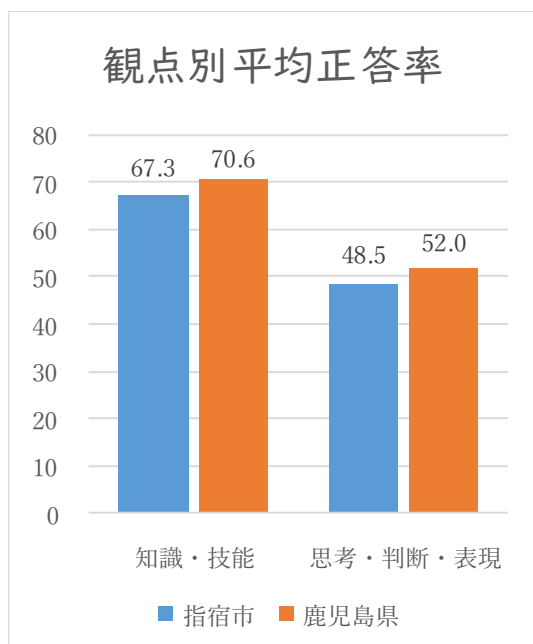
領域別平均正答率



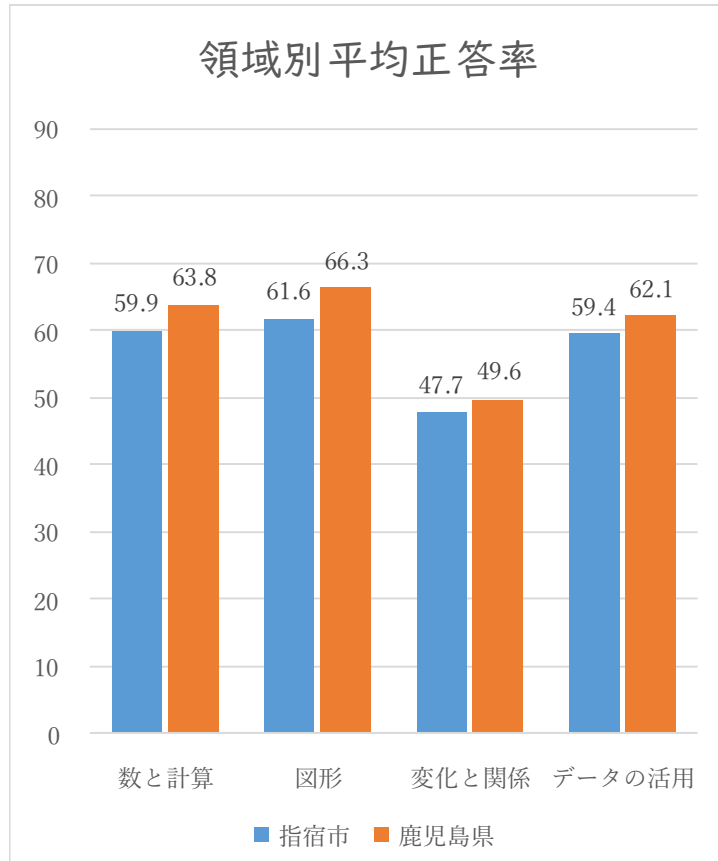
(2) 小学校算数



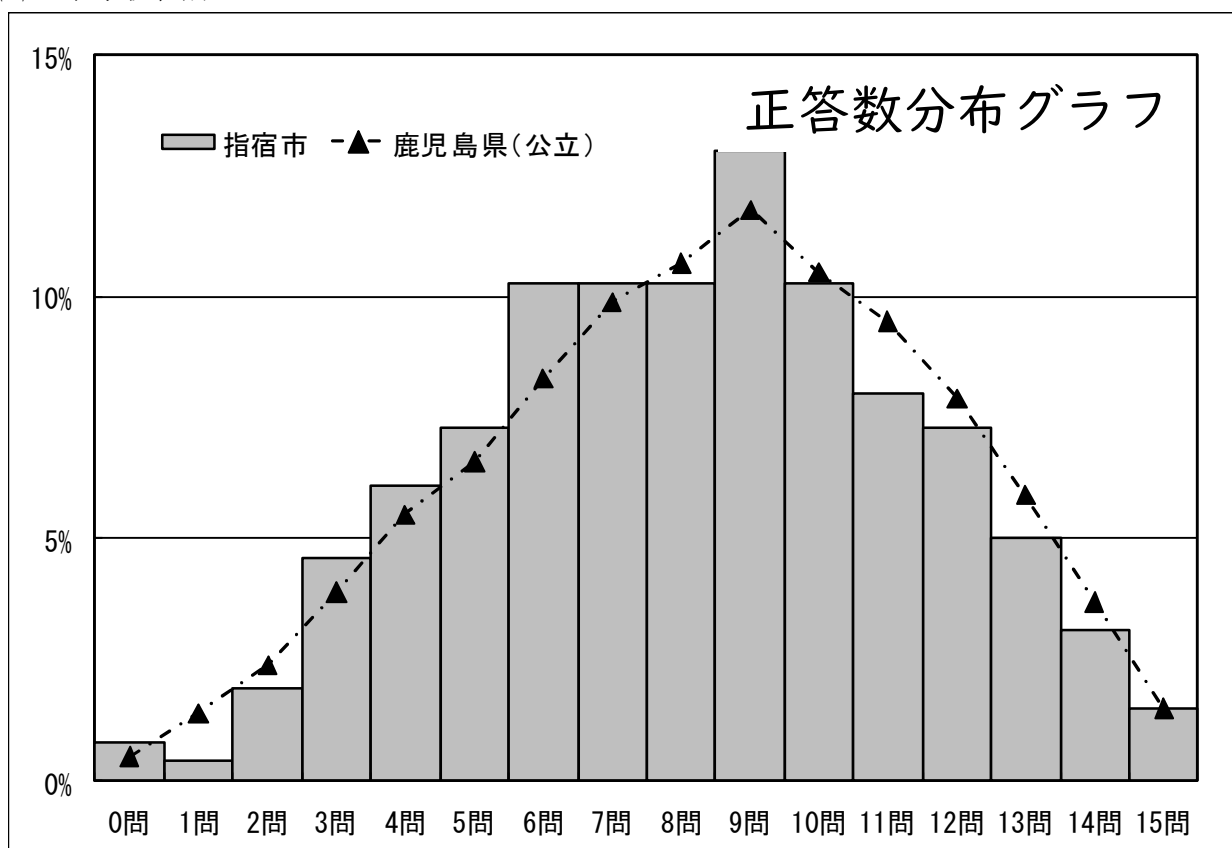
正答数1問・5～7問・11問が県平均と比較すると、割合が高い。算数に苦手意識をもっている児童への個別指導が課題である。「単元のデザイン」をキーワードとして、補充指導の時間を確保し、「誰一人取り残さない」という姿勢で、きめ細やかな指導に努める。



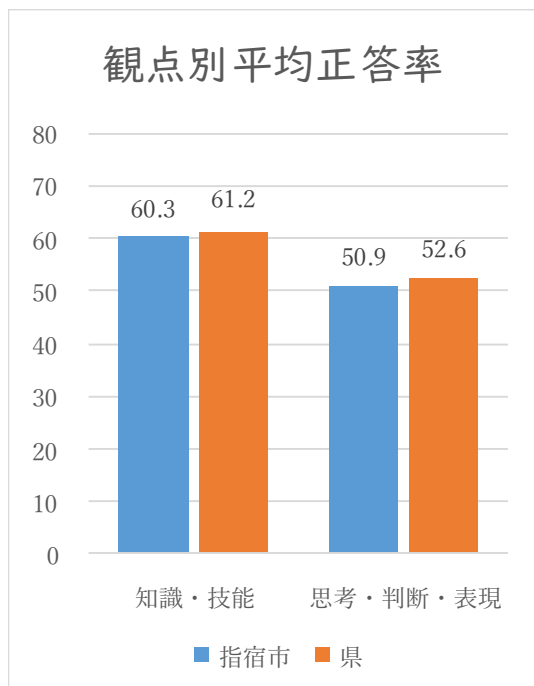
観点別平均正答率の「知識・技能」において、県平均との差が-3.3であった。まずは、基礎・基本の確実な定着を図り、総合的に向上させていく。



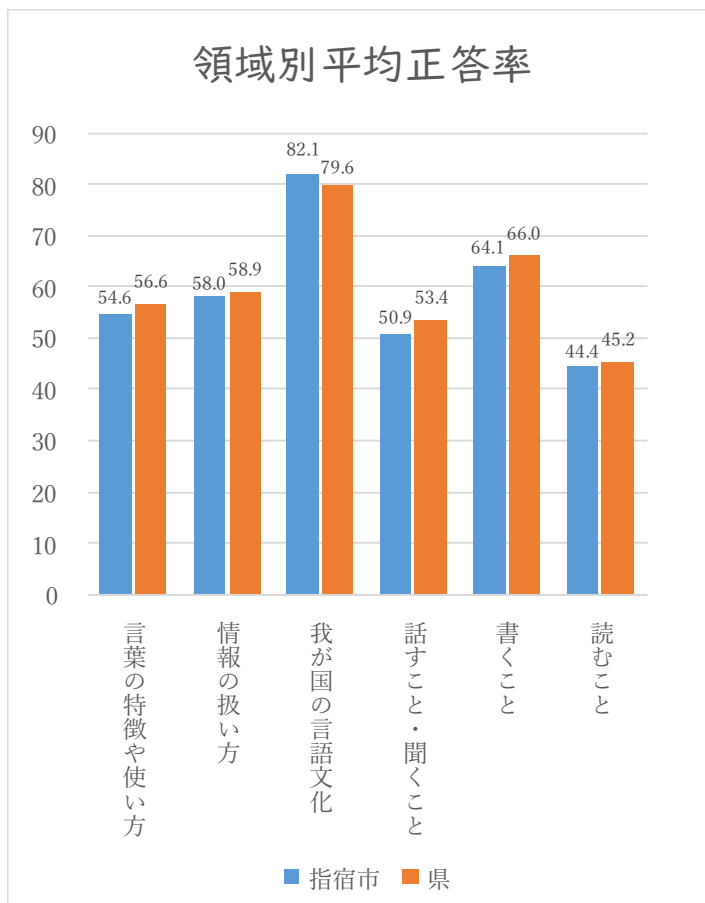
(3) 中学校国語



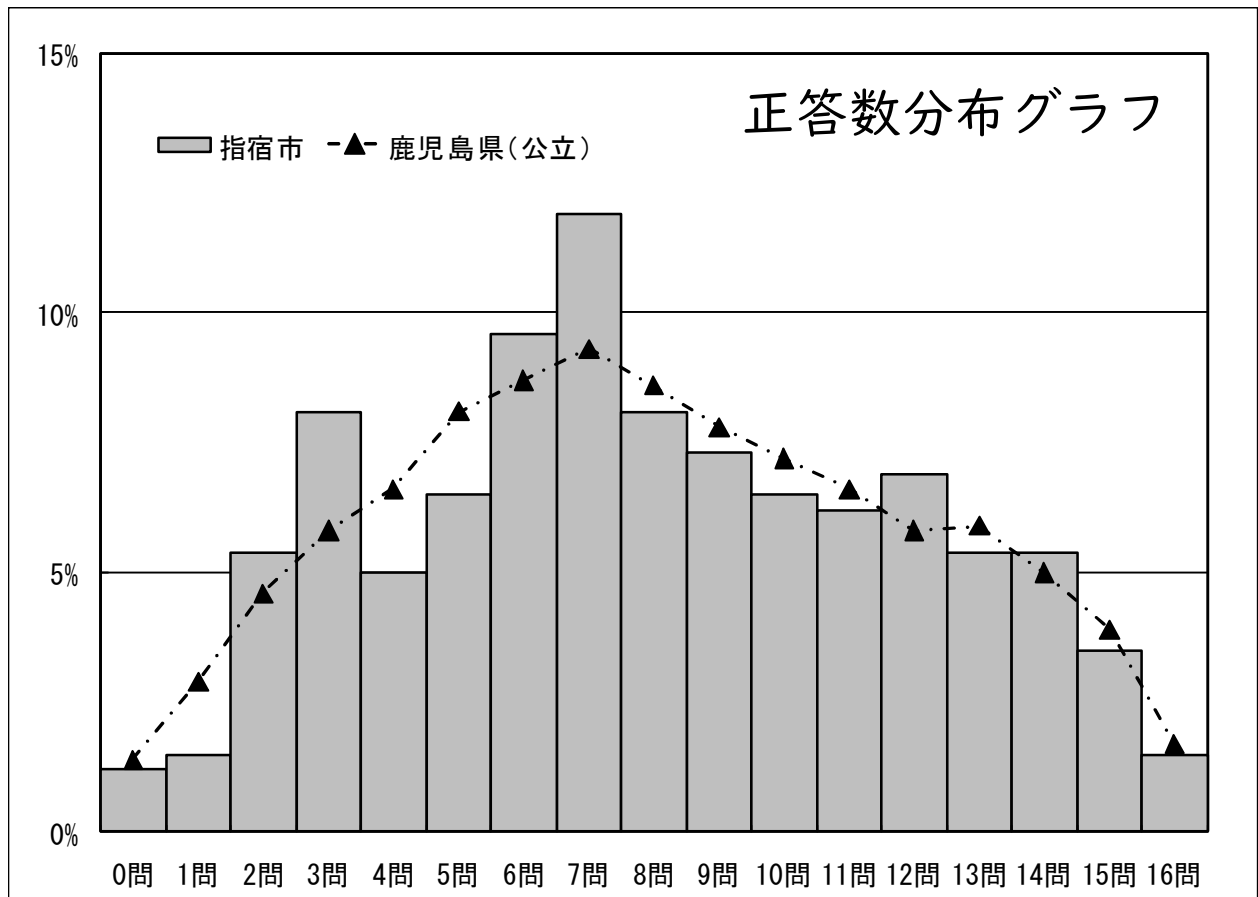
6問正答した生徒の割合が県平均と比較すると高く、11問から14問正答は、県平均より低くなっている。個人差に対応するためにも一律・一斉・一方向のみによる授業から脱却し、生徒が主体となって学習方法や内容を選択・決定していく場面をより増やしていく。



領域別平均正答率の「話すこと・聞くこと」において、県との差が-2.5であった。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。

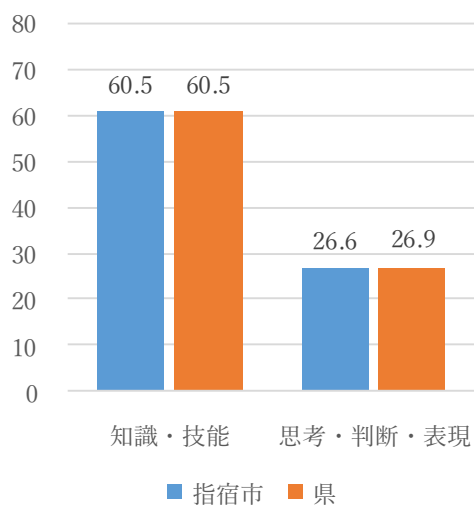


(4) 中学校数学



正答数2問・3問が県平均と比較すると、割合が高い。中学校第3学年の前までの指導が結果に大きく影響していると考えられる。算数・数学が「分からない」と回答している児童生徒への個別指導について、小・中が連携を深め、小学校段階から充実させる。

観点別平均正答率



領域別平均正答率の「図形」において、県との差が-3.0であった。ICTを文房具として、効果的に活用した「探究的な学び」の充実に努める。

領域別平均正答率

